

会報

No.15

1988. 3. 25 発行

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL (075)771-0069



『図書館の仕事大好き族様』

京都市文教短期大学教授・図書館長

後 藤 晨 次

図書館の仕事をしている人は、たまたま人事異動でそこへ配属されたというお方と、本が好きでそうなっちゃったという人種の二つがある。前者のお方については、まず理屈ヌキに図書館を好きになってほしい。

館に来られる人を好きになってほしい。管理職ならその上で予算だけは沢山取ってきてほしい。

後者は図書館の仕事大好き族と、自分の研究・趣味のために図書館を個人的に利用したいので、あまり業務に手を取られたくないノダ族にわかれるみたいだ。

はじめのタマタマ人と後の二族がからみあいながら毎日が過ぎていくのだが、貧乏クジを引くのは図書館大好き族と大体決っている。

いい本見つけたら、みんなに知らせたい。聞かれたことは何としても調べてあげたい。書架が乱れると気になる。本が来てるのに受入れが遅れて積んだままだと悪いことをしているみたいなのがする。傷んだ本を見るのがつらい。カバーや箱、腰巻きなど、本についているものは全て捨てるのが惜しい。当然、廃本は

そのこと自体が嫌い。

事務の方で言うと、図書館といふところはいつも何か遅れてるか、たまたまってる仕事があるから気が休まらない。情報図書館時代などと言われると、早くそのノウ・ハウを手に入れようと焦る。

その上、最低一日一つは、ちょっと新しくやってみたいパフォーマンスを思いつくと忙しさに決っている。

気がついて見たら、何だか近頃本が読めないな、なんてことになって、私の人生は何なんだろうとタメ息をつく。なのに、図書館にお勤めですか。本が読めておよろしいですね、と言われる。中では、あれは好きでやっとなんかからで終りがち。

それでも女一人大地に行く。女と言ったのは、大好き族には何故か女が多いから。男だと母性性が高い人に限られる。大体、父性性の高いおぢさん又は女史に図書館の仕事させると、何かにつけ指導したり管理したがるから困るんだと、余分なことを言っというて、さて、皆さんお元気でですか。

前に京都市中央図書館長の兼職を命じられて舌なめずりをしたのもツカの間、一年でしまいだったのが、昨年からはまた図書館の仕事が出来るようになって息ふきかえしています。

新しく仕事することになった図書館の蔵書を初めて見るのは、なかなかスリルがあるもので、仲間の目と冷酷な批判者の目で書架を見ていくことになる。それで、有って嬉しかったり、無かってシメタと思ったり、中に、これは志のある人が居たなとわかるコレクションがあって感激したり、これは経験者が多いはずです。そこでということだけけれど、図書館大好き族の情報通信網が作れないかなというのが当面の夢です。電子メールで好きなこと言ったり、グチこぼしたり、既販図書館ソフトの悪口を言ったり。昼間に時間を作って、或いは深夜ひそかにおしゃべりが飛びかっているなんていいじゃないですか。その楽しみと値打ちをどこの館長さんも、そしてもっと上の人もわかってもらえたら幸せです。

筆者紹介

京都市教育委員会事務局・生徒福祉課長、社会教育課長、市社会教育総合センター事務局長、市中央図書館長兼職等を歴任、昭和六十二年四月から現職へ、京都大学法学部卒業

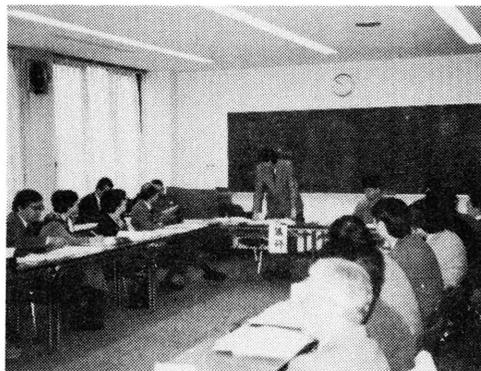
一泊研修

今年度の一泊研修が二月四日、五日に、京都府青年会館で二十五館四十五名が参加して行われました。

浦安市立中央図書館の竹内紀吉館長から「よりよい図書館を求めて

——生涯学習の時代における図書館の役割」草津市立図書館の武内隆恭館長から「市立図書館からみた滋賀県立図書館」と題した講演が行われ、府立図書館・長岡京市立図書館・田辺町立図書館からは事例発表がありました。

活発な図書館活動で、全国的な注目を浴びている両図書館からノウハウを吸収しようと、参加者は各館の活動状況を報告しあい、夜遅くまで熱心な討議を交しました。



● 図書館の開館と同時に勤務して、二年目になります。スタートしたばかりの図書館を、館員としての経験に乏しい三人の職員で日々運営して

いますので、様々な問題や疑問点を抱えながら、仕事に当たっています。府下で開催される研修会等には、積極的に参加していますが、今回の一泊実務研修会は、特に学ぶべき点の多い、印象深い研修会であったと感じています。

まず、第一日目の浦安市立図書館長の竹内先生の講演では、浦安の図書館の資料費や蔵書数等のスケールの大きさと、住民サービスのきめ細さが、あれだけの実績に結びつくのかと納得しながらも、自分の館とのギャップの大きさに啞然としてしまいました。また、最後の方で述べられた、「よりよい図書館をめざすならば、どのような状況の下でも、現時点で出来る最大限のことをやらなければ、事態は前進しない」という言葉は、私にとり図書館の仕事をしていく上で、とても重みのある印象深い一言でした。

第二日目の、草津市立図書館長の武内先生の講演では、滋賀県に於ける県立図書館を中心とした、相互協力体制の現状について説明していた

だけ、自分の館のように規模の小さい図書館では、どうしても府立図書館等の援助・協力が必要であり、その点に於いて滋賀県の現状を、とてもうらやましく思いました。

私のように、経験に乏しい図書館員にとり、学ぶことの多かったこの研修会ですが、やはりこの研修会の一番の収穫は、日頃顔を合わせるこの少ない、他の図書館の方々との交流の場を得ることが出来たことだと思います。研修会で学んだことと共に、ここで出来た図書館間のつながりも、今後の仕事に生かせるように、よりよい図書館をめざして励んで行きたいと思えます。

(加茂町立図書館 西嶋京子)

●「量的拡大は質の問題をともなわなければならない。」浦安市立図書館・竹内館長がこの研修会の講演の中で強調されていたことは、これからの図書館の方向性であった、と思います。自分自身の毎日をふり返ってみても、日常の仕事に追われ、「一つの業務が図書館全体の中でどういう役割を担っているのか」また「図書館職員としてどんなサービスをし、どんな図書館をめざしているのか」など「質」の問題は全くといっていいほど考えられていません。竹内館長の講演を聞いてまず驚いたのは、図書館主催事業のすばらしさと

共に、それらの事業（仕事）の取り組み一つ一つが職員発意である、ということでした。研修体制の確立もさることながら、絶えず問題意識を持ちながら具体的に実践されている浦安市立図書館の「質」の高さを

知りました。講演でもう一つ印象に残ったことは、浦安のPR活動でした。それも対行政（主に人事、財政当局）へのPRの重視です。「黒字経営」という言葉が使われましたが、それはとりもなおさず、市民の図書館に対する信頼の厚さだと思えます。自治体の中で「図書館の存在の大きさ」は、こんなところにあらわれているのではないのでしょうか。それらを踏まえて大型書庫の建設など、これからの浦安についても話していただきました。

二日目は、草津市立図書館・武内館長より「市町村立図書館こそ公共図書館であり、市町村立をバックアップするのが県立の機能である。」などの内容の講演がありました。

生涯学習時代を迎え、公共図書館に働く職員として、貸出機能の充実にとどまらず、常に「質」を意識することの重要性を学んだ二日間でした。

(宇治市中央図書館 笹田保治)



(3)

〈特集〉

1987 読書週間行事 まとめ

図書館名	行事名	行事内容
京都市中央	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間記念行事 特別講演会 ・読書週間 ポスターコンクール入選作 展示 ・秋のおたのしみ会 ・大型紙芝居と読み聞かせの会 ・紙芝居と読み聞かせの会 	<p>「平安京と平泉」 講師 平安博物館長 角田文衛氏</p> <p>京都市中学生の読書週間ポスター入選作品展示</p> <p>パネルシアター、手品、大型紙芝居 大型紙芝居「ねずみのよめいり」 絵本の読み聞かせ「とらときつね」 紙芝居「のねずみとまちねずみ」 絵本の読み聞かせ「ぼくそらをさわってみたいんだ」</p>
京都市伏見中央	<ul style="list-style-type: none"> ・映写会「子どもに読書のよろこびを」 ・読書週間特別講演会 ・読書週間記念作文コンクール ・大型紙芝居と読み聞かせ 	<p>映画会</p> <p>「読書好きな子どもをどう育てるか」 講師 京都市教育委員会 指導主事 嶋路和夫氏</p> <p>小学校児童を対象に感想文を募集 大型紙芝居「おむすびころりん」 読み聞かせ「にんげんってたいへんだね」</p>
京都市下京	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居と読み聞かせの会 	<p>紙芝居「にんじんさん、だいこんさん、ごぼうさん」 「おうさまのながぐつ」 絵本 「りんご」</p>
京都市山科	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の映画会 	<p>「パンダの交通教室」 「ゆうれい屋敷」 「山の太郎熊」</p>
京都市洛西	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせと紙芝居の会 	<p>読み聞かせ「おてがみください」 紙芝居「まほうのふで」</p>
京都市醍醐	<ul style="list-style-type: none"> ・開館5周年記念行事 	<p>親子お楽しみ会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人形劇 ・まんが映画
向日市立	<ul style="list-style-type: none"> ・古典文学講座「漢詩を読む」 	<p>漢詩がテーマの講座 第5回は関帝廟、白鶴美術館をバスで訪問</p>
宇治市中央	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間記念講演会 	<p>「おかあさんマンガを読んでいますか」 — マンガを中心として子供の本を考える — 講師 帝国女子大助教授 竹内オサム氏</p>
城陽市立	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間記念講演会 	<p>「くらしの中の絵本」 講師 桃山学院大 児童図書館長 根岸伴子氏</p>

図書館名	行事名	行事内容
大山崎町中央公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・お楽しみ劇場 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーリーテリング 「おなかいっぱいいたべたネコ」 ・パネルシアター 「ふしぎなポケット」他 ・ペープサート 「かぐやひめ」 ・影絵「すてきな三人組」
久御山町立	<ul style="list-style-type: none"> ・お話し会 ・読書相談コーナー ・学校推せん図書展示 ・移動図書館車コーナー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーリーテリング ・絵本の読み聞かせ ・紙芝居 ・ゲーム <p>読書に関する各種の相談の受け 町内各小・中学校より推せんされた図書の展示 移動図書館車「さざんか号」の展示</p>
八幡市立八幡市民	<ul style="list-style-type: none"> ・「なんてったっておもしろい本ベストテン」 — 児童書 — 	<p>全利用者（大人を含む）を対象に3冊までの投票から集計、1位～10位までのタイトル発表。7位までを図書館だよりで内容案内する。</p>
木津町立	<ul style="list-style-type: none"> ・受賞児童図書展 ・紙芝居と絵本の時間 	<p>受賞児童書のすばらしさについて啓蒙する。 紙芝居「シュークリームのおきゃくさま」「おおきくおおきくおおきくなあれ」「ころころぐま」 絵本 「ちいさなクレヨン」「きつねとかわうそ」「さっちゃんのかさ」 ・手あそび（折紙）</p>
加茂町立	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間おはなし会 	<p>大型紙芝居「やさしいライオン」 読み聞かせ「ちいさいおうち」他</p>
精華町立	<ul style="list-style-type: none"> ・文学散歩 ・古典芸能鑑賞 	<p>嵯峨野散策 文楽「恋女房染分手綱」 「心中宵庚神」</p>
綾部市	<ul style="list-style-type: none"> ・第20回優良読書グループ表彰伝達式 	<p>表彰状 他の伝達</p>
福知山市立	<ul style="list-style-type: none"> ・製本技術講習会 	<p>和本・洋本・修理の製本講習</p>
宮津市立	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ本を絵にする作品募集 	<p>保育所・幼稚園・小学生が本を読み感じたこと、思った事を絵にしてもらう</p>
峰山町立	<ul style="list-style-type: none"> ・第28回児童・生徒読書感想文の募集 	<p>町内小学生 1,141点・中学生 151点の応募があった</p>
亀岡市立	<ul style="list-style-type: none"> ・図書展示（一般書） ・図書展示（児童書） 	<p>テーマ「私の三冊」 170冊展示 テーマ「日本の児童図書賞 1982～86年」 280冊展示</p>
京都ライトハウス点字	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回読書会 	<p>文学散歩「平家物語を訪ねて」</p>

1987 読書週間行事から

おもしろい本

ベスト・テン
八幡市民図書館

今年も当館の過去一年のベスト・リーダーができました。児童書の上位は「びよこたん」「アンパンマン」などのシリーズが占めています。これらと子供達が「おもしろい」と思っている本とは、一致するものだらうかという疑問から「なんてったっておもしろい本ベストテン」を子供達に選んでもらいました。

一人一回、三冊までで、大人の方でも投票可ということで始めました。PR不足か、集まったのは、期待していたより少なく一〇六票。結果は、上位に「アンパンマン」「こまつたさんのおりょうりきょうしつ」「はれときどきぶた」が入るのは予想通り。が、一方「ピーターラビット」「いやいやえん」「ひとまねごころ」「マガーク少年探偵団」が入ってくるのは予想外でした。子供達自身を読んでおもしろいと感じている本とベスト・リーダーにズラズラと並ぶ本との微妙な違い——この微妙な違いを私は期待していたのかも知れません。

(内田宏子)

「私の三冊」展

亀岡市立図書館

岩波文庫が、各界著名人に対し、「今日なお心に残る書物・ぜひとも他の人々にも勧めたい書物」について、アンケートを実施し、その結果をまとめたリストがあります。亀岡市立図書館では、それをもとに「私の三冊展」を開催しました。

赤川次郎、栗原小巻、山田洋次といった著名人、百名余りの推薦する図書を並べると、いつもは自分のめざす書架へ一直線の利用者も、この展示の前でふと足をとめ「あの人がこの本を」と熱心に見入っていました。

文学散歩

精華町立図書館

精華町立図書館では、毎年秋の読書週間に文学散歩を実施しています。今回(第九回)は河野仁昭氏(詩人)を講師に招き嵯峨野を散策。野宮神社から落柿舎、祇王寺、そして大覚寺へとなだらかな山に包まれた静かな野の道を王朝のロマンを追って訪ね歩きました。当日は好天気恵まれ五十人を越す参加者達は、深まりゆく嵯峨野の秋を満喫しました。

(十回目にあたる次回文学散歩は趣向を変えてもう少し足をのばしてみたいと思っています。)

特別講演会

「平安京と平泉」

京都市中央図書館

昨年の十一月七日、平安博物館長角田文衛氏を迎え「平安京と平泉」と題した講演会を開催しました。

平安文化の平泉流入、義経の東北逃避行、これらはいずれも海路によるものとする内容は、ロマンあふれる平安時代と、義経の歴史的考証という点もあって、会場は開演前から超満員。加えて氏のわかりやすい解説とやさしい語り口に、講演終了後も氏のまわりには教えを求める人垣ができ、帰路が一時塞がれる一幕もあるなど大変な盛況のうちに終了しました。

それぞれの分野の権威から、直接求めるものが吸収できる講演会の魅力と意義を改めて認識しました。



「読書感想文」募集

峰山町立図書館

町内小・中学生を対象に読書感想文の募集と、それに基づく「読書感想文入選作品集」の発行をしています。

町内の小・中学校と図書館協議会委員との連携で、昭和三十五年以来毎年欠かさず行い、昨年十二月には第二十八回目の作品集を発行し、入選者に贈りました。

小学生は、学校全体で取り組み、ほとんどの子どもが応募しています。これに入選したことが、その後読書や文章を書く時に心の支えになっている子どもも多いでしょう。

第三回理事会報告

今期最後の理事会が、三月三日、府立図書館で開催されました。今回は、役員改選を控えているため、引き継ぎを念頭において協議され、昭和六十二年度会務報告(案)、収支決算見込(案)は修正の上承認、各専門委員会報告も了承されました。また、昭和六十三年度事業計画(案)及び予算(案)は一部修正の上了承、次期役員に引き継がれることになりました。

最後に、次期理事については三月二十五日までに出選し、四月中に初理事会を開催することになりました。

なお、日図協会との交流会は、新年度早い時期の開催を調整中です。

専 門 委 員 会 ニ ュ ー ス

相互協力委員会

本年度は7月17日（於府立図書館）、12月1日（於京都市伏見中央図書館）、2月16日（於長岡京市立図書館）の3回の開催に終わった。事業としては、「昭和61年度相互貸借実態調査報告書」を刊行（昭62.12）するとともに、逐次刊行物所蔵目録作成2ヶ年計画の第1年次として、その構想を練り、調査票類を作成、これの発送により調査を開始しています。

前者の報告書は、加盟館をはじめ近畿の府県立および指定都市立の公共図書館、日本図書館協会等に配付したところ、ユニークな調査として日本図書館協会事務局より反響があり、「図書館雑誌」への寄稿依頼も予想されます。“Libraries don't stand alone”ということで理論化され尽くしている相互協力ですが、その基礎である資料の相互貸借も、日本においてはまだまだ未熟の域である現状の中で、少しでもその振興に役立ちうるものとなればとこの事業は、今後隔年で継続していく予定です。

後者について、内容的には「京都府公共図書館等所蔵雑誌新聞類目録（仮称）」として昭和63年度末、完成をめざしています。モデルとして「兵庫県公共図書館雑誌紀要等総合目録」を参考にしており、300部を印刷し全国配付を考えています。なお、本事業はその性格等に鑑みて、京都府立図書館に共同編集刊行を申し入れています。

5月末の調査票回収期限を厳守していただく等、加盟各館の積極的なご協力をお願いします。

研修研究委員会

62年12月以降の研修研究委員会は、62年度最後のビッグイベント（一泊研修）の成功にむけて活動を行ってきました。これまでの活動の概要及び今後の予定は以下のとおりです。

1. 研 修 会

(1) 第2回研修研究委員会

テーマ：一泊研修について

日 時：62年12月18日（金）

場 所：京都市伏見公会堂

参加者：14人

(2) 第40回実務研修会（一泊研修）

42人の参加をえ、充実した研修会となりました。

詳細は2頁を参照。

2. 研 究 会

(1) 児童奉仕研究部会

太子町立図書館の古寺館長を講師に研究会

(3/8)

(2) 障害者奉仕研究部会

実態調査のまとめをすすめている。(12/3)

(3) 参考事務研究部会

事例研究を中心とした研究活動を行っている。

(12/10. 2/12)

3. 京 庫 連 と の 共 催 事 業

講演会と交流会を一本化して12月4日（金）に実施。

テーマ：子どもの言語・感性をそだてる

—子どもの考える力・感じる力—

講 師：藤本浩之輔氏（京大助教授）

場 所：京都府立図書館

参加者：28人

全国研究集会日程

整理 福島県福島市

六三・十・六〇〜十・七

収集と保存のためのシステム

奉仕 和歌山県和歌山市

六三・十・二〇〜十・二一

図書館奉仕の当面する諸問題

児童 石川県金沢市

六三・九・二九〜九・三〇

すべての子どもに読書のよろ

こびを

参考 千葉県浦安市

六三・十一・八〜十一・九

広報委員会だより

◆八幡市民図書館の昭和六十一年度の貸出冊数が市民一人あたり六・八冊となり、全国でもトップクラスというホットなニュースがとびこんできました。◆さて広報委員会が発足して二年、ふりかえってみて、情報収集など皆様方のご期待に十分お応えできず、我々の力不足を痛感しているこの頃です。◆四月からは新しいメンバーで委員会が構成されます。新委員により、これまでとはまた視点を変えた編集で、紙面が益々充実していくことを願っています。◆担当しておりました間、忙しいなか、原稿をお寄せ下さった方々に心からお礼申し上げます。◆加盟館の皆様、ご協力ありがとうございました。